

このような雑誌や編集が悪いというわけではありません。「表現の自由」や「読者のニーズ」とかいろいろあるでしょう。

ジェンダーに敏感な視点では

今回に限らず、男性向け雑誌の中の女性は「男性にとって都合の良い女性」ではないでしょうか。「女性とはこういうもの、例えばいつもニコニコしていて、よく気がついて、何でも言うことを聞いてくれるような優しく、若くてかわいい」「結婚したら、夫をたてて子どもを産んで家事と子育てを完璧にこなし、夫の親の面倒（介護）をみる」「高齢の女性は女じやない」等々というすり込み、無意識のうちにイメージが作られてしまうおそれがあります。そのイメージ・思い込みから少しでもはずれると「女のくせに」とか「女だから……」。

「女だから」すべての女性がそうとは限りません。傷つき、悩んでいる人がいます。

そしてまた、セクシャルハラスメント、ストーカー、ドメスティックバイオレンス（DV）などの一因とならないとも限りません。

もちろん、男性だって

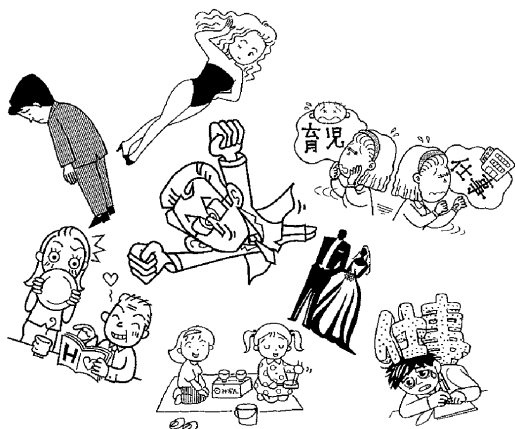
男性だって

女性だけのことではありません。男性にも同じことが言えます。

CMにもあったように「24時間戦うこと」が男だと思われたとしたら、男だから泣いてはいけないと子ども頃から言われ続けたため弱音を吐くなんて男らしくないと自他ともに考えられているとしたら、高学歴・高身長・高収入でなければ、強くなければ、と求められたとしたら

男性の皆さん

しんどくないですか。このことが無ければ、もしかしたら中高年男性の自殺の何割かは防げたとは思われませんか。



弱音を吐けずに、配偶者たちに暴力を振るってしまう男性の病んだ心も癒されるのではないのでしょうか。いじめによる自殺に男の子が多かったということも前記と同様、「男の子だから泣いてはいけない」「弱音を吐くなんて男らしくない」ということがすり込まれているからとも考えられています。

セクハラ、DV、パラサイトシングル（※1）、未婚・晩婚化、少子化、熟年離婚など社会問題となっているこれらのことから、女・男・妻・夫・母・父は「こうあるべき」という社会的・文化的につくられた性差（ジェンダー）が関係しているからと考えられています。

『女らしさ・男らしさ』がなぜ悪いのか』

と聞かれます。

「女（男）らしさ」が悪いということではなく、必要以上に押しつけないようにしようということですね。押しつけや無意識のうちのすり込みにより本来の「自分らしさ」を発揮できないままではどうでしょう。せっかく平等な教育を受けている子どもたち。それなのに、学校を卒業すると「ジェンダー」に染まっ

いく。「ジェンダー・バイアス（※2）の再生産」だけは防ぎたいものです。雑誌の他にも、すり込みとなるものはいろいろあります。例えば

CM

洗濯用洗剤…ほとんど女性

母が多い

シャンプー…ほとんど女性

髪の毛の長い女性が多い

食品…つくる側に男性が起用されてきてはいる

が、まだ女性が多い

栄養ドリンク…一部働く女性が出ていたがほとんどは男性

車…軽自動車は女性、ワゴンタイプはファミリー（標準世帯といわれる、若い夫婦に子どもが二人（子どもは女の子と男の子）の場合が多い）

電化製品のパンフレットはどうでしょう？

テレビの番組では？

まさかとは思いますが教科書は？

一度視点を変えて、身の回りを見てみてはいかがでしょう？

「感じて」「気づいて」「変わる」男女共同参画は

あなたから始まります。

※1 パラサイトシングル…就業してからも、親から経済的サポート・家事サービスを受け続けること
（パラサイトは寄生・居候の意）
※2 ジェンダー・バイアス…ジェンダーに基づく偏見および偏向

※1・※2は岩波女性学辞典（岩波書店）より